

幼少時の母親の市場労働が成長後の教育成果に与える影響

小原 美紀^Y 大阪大学大学院国際公共政策研究科

李 嬋娟 大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程

要旨

幼少期の家庭環境は子どもの教育成果に影響を与えるのだろうか。本論文では、幼少期の母親の就労に注目して、母親の就労が大学受験時点の学力に与える影響を明らかにする。分析には大学受験のための統一試験の点数が分かる韓国のパネルデータを用いる。分析によると、まず、14歳時点の学業成績の良さは18歳時点のテストスコアの高さと強い相関を持っていることが示される。基礎教育終了時点で学力は確立されているといえよう。そして、3歳時点の母親の就労は14歳時点の学力にも18歳時点の学力にも影響しない。例外として、所得階層の中位・上位のクラスでは、3歳時点の母親の就労が基礎学力と大学受験時のテストスコアをともに低下させる可能性がある。また、分析において一貫して得られる結果として、親子間の会話の多さが子どもの教育成果を高める効果が確認される。少なくともある一定の所得以上では、幼少時に母親が市場労働をせず家にいることで親子間のかかわりが深くなり、子どもの教育環境が整い、初等教育時に修得する基礎学力を向上させる可能性がある。

Key Words: 幼少時の母親の就労, 子どもの教育成果, マイクロデータ, 韓国

JEL Classification Codes: J13, J22, D12, D13

^Y 560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-31. E-mail: kohara@osipp.osaka-u.ac.jp

この研究は、科学研究費補助金（若手（B）20730156 および、グローバル COE（大阪大学）の補助を受けています。